

立命電友会

発明、発見の面白さ

福井工業大学教授

堤

誠

(昭和三十六年卒)



一、はじめに
 題目から考えると、私自身が何かすばらしい発見、発明をしたような印象を与える。もちろん、その願望は今も変わらないが、ここでは私の仕事、最近の研究に関連して、私なりに感じている発明、発見の面白さについて記してみた。

二、昭和三十六年頃の井上先生の思い出
 私は昭和三十六年に立命館大学の電気工学科を卒業している。もちろん理工学部は衣笠にあった。

四年生になると例のごとく卒業研究を選ぶ必要があり、私は井上勲夫先生の研究室を選んだ。井上先生は電子工学の権威で、特に電子顕微鏡の権威であられた。卒業研究のテーマはテレビジョン画像の投影で、これを油性膜で投影する方法(アイドホール法)が提案されていたが、井上先生は、発光素子にネオン管を用い、これをデジタル回路で知られているフリップフロップ回路を介して一つ一つ素子をスイッチする方法を提案されていた。当時スイッチする論理回路には興味があったが、これがテレビジョン画像の投影にどう結びつくのかは想像も出来ず、半信半疑で卒業研究を終えたが、よく考えてみると、今騒がれている液晶やプラズマテレビの原型であることも事実である。確かに今の様な液晶の投影装置になるには多くの発明と発見の集積の結果であるが、

その当手を振りかえってみると、井上先生の夢が実現したのである。このように夢の実現が発明、発見の面白さの一つであることに違いない。

三、エチソンの発明、発見

先日京都産業博物館でエチソンの発明展があり、見学する機会を得た。ここでエチソンの発明、発見はまさに天才的なものであるが、その面白さについて、私見を述べたい。まず電球の発明である。これは電線に電流を通せば空気中では酸素があるため燃え尽きてしまうが、周りを真空にし、酸素を絶てば電線は燃え尽きること無く光を放ち電球になると言う簡単な発明が原点である。次に蓄音機の発明である。これは人間の声と言わずわめて弱いパワーをいかにして針の動きに変え、ロウを引いた板に記憶させるかと言う課題である。音の振動には縦波と横波があることは知られている。例えば満員電車で電車がカーブにさしかかった場合に横に揺れる力(横波)はさほど苦痛ではないが、ホームに近づくブレーキがかかり、押される力(縦波)はかなりの苦痛を与える。このように縦波は横波に比べて大きな力を持っている。エチソンは最初この縦波を使い蓄音機を試作している。おそらく横波を採用したらロウ板を削る力が弱く、この発明にいたらなかったであろう。さらに映画の発明である。私も中学時代なせ映画で画像が動くのか大いに疑問であった。もちろん、少しずつ動きが異なる画像を

回転するスリットから見ると画面が動いて見える同期は理解できるが、ただフィルムを送るだけで動画になることは長い間謎であった。エチソンはこれをフィルムの両端に穴を開け、楔型の金具でフィルムをかき落とす方法で動画を生成している。おそらくエチソンは電気工学の知識ばかりでなく、機械工学の知識も持ち合わせていたことが想像できる。しかしこれもきわめて単純な着想が、映写機と言わずすばらしい発明に繋がったことは事実である。

四、左手系回路の研究

私の専門は電磁波工学である。もちろんこの分野は数多くの偉大な発明と発見によりつちかわれた情報通信工学という大きな分野の一つである。このような偉大な発明は別として最近の私の研究に關連して発明と発見の面白さについて述べてみたい。まず、少し専門的になるが、電波の速度は電磁気学で学ぶ誘電率と透磁率の積の平方根の逆数で与えられる。通常、誘電率と透磁率どちらも正であるため平方根の中は正(実数)になり電波は右手系の形で伝搬する。一方、誘電率が透磁率のどちらかが負になると、平方根の中が負(虚数)となり、電波は伝搬しない。これらは良く知られた電波の姿である。しかし誘電率と透磁率が両者とも負になればどうなるであろうか。もちろん、この場合平方根の中は正になり、電波は左手系の形(戻るような形で)で伝搬するのである。このような左手系

の考え方は四十年前にロシアの科学者により論文として公表されたが、これをいかにして実現するかは長い間の課題であった。しかしこれが最近、従来の右手系の線路に少し手を加えるだけで(厳密には容量とインダクタンスを周期的に加える)実現できることが分り、これを期に電磁波工学の分野では大騒ぎになり、私もこの騒ぎに巻き込まれた一人でもある。左手系の回路の応用研究が進むにつれてその面白さを感じている毎日である。

五、むすび

発明、発見の面白さはいくつかの例を挙げて比較的単純な発想にあることを述べた。ここで重要なことはこの単純な発想はどこで養成されるのだろうか。確かに天才と言われる人は別として、私なりの考えでは一つは幅広い基礎知識の習得、他に実際の現象をよく見ること、興味などが挙げられるが、正しい解答はやはり勉強することであろう。終わりに井上先生の思い出にあるように、我々の生活、強いては社会に貢献するような発明、発見に夢を託したい。

左手系回路に興味をもたれる方は、堤 誠著、1「解説、負の屈折率伝送媒質とマイクロ波回路への応用」、電子情報通信学誌、八十八巻二十三頁(二〇〇五年一月)、2「左手系マイクロ波回路技術とその応用」、電子情報通信学会誌、J八十九-C巻、百九十一頁(二〇〇六年五月)などを参考にして下さい。

思いだすこと、思うことなど 定年退職のご挨拶に代えて

溝尻 勳

一九七五年（昭和五十年）四月立命館大学理工学部電気工学科に赴任して、三十二年になります。いま、私は六十五歳ですから、おぎゃあと生まれてからの私の人生のおよそ半分が立命館にあったことをおもうと今更ながら、えらく永く居たものよと思います。

立命電友会の事務局から定年退職の一文を書けと云われ承知したものの、よくよく考えてみると、私の半生を反省、懺悔しないと書けそうもないと昨年暮れから新年にかけてえらく悩んだ末、思いだすことをとりとめもなくくだらだらと綴ることにしました。

立命館理工学部の電気工学科にきて、お前は電子工学科出身だからというので、最初に担当した講義科目は「電子工学」と「情報理論」でした。当時は今のようシラバスなんか整備されていませんし、講義内容についてもそんなにうるさくありませんでした。「情報理論」は学生時代受講したこともあり、講義する内容が科目名から類推することが容易でしたが、「電子工学」は何をどう講義すればよいかずいぶんと惑いました。私は大阪府立の電子工学科の一期生で専攻は電子回路工学でしたが、

電子工学科のカリキュラムの中には「電子工学」という講義科目はありませんでした。結局、「半導体物性論」を中心にした電子工学概論のような講義をしたのですが、学生時代この「半導体物性論」は「優」、「良」、「可」の「可」をもらった科目でしたから、毎回の授業は冷や汗ものでした。また当時立命館理工学部の電気工学科の文部省定員は一学年八十名だった筈ですが、一学年に百六十五名、倍以上いたと思います。前任の福井大学教育学部には、三年間しか居ませんでしたから入学から卒業まで見た学生は居ません。また、技術科という小さな教科でしたから、三年間で見た学生は延べで四名、一番学生の多い家庭科の授業でも四十名くらいでしたから授業で学生からプレッシャーを感じるなんて経験はありませんでした。立命館での授業中には、百名を超える多勢の学生の前面から受けるプレッシャーが強烈に感じられ、耐えかねて黒板を向いて板書すると背後からざわざわという声で押しつけられ早く前を向いて対応しなくてはという強迫観念に襲われる。こんな状況でしたから、授業で胃痛が起こらなくなるまでに一ヶ月

くらいかかったと思います。この頃の学生さん達には申し訳ないことでした。立命館理工学部の電気工学科にきて数年目のことだったと思えます。卒業研究の学生たちとゼミ旅行に行く事になりました。当時卒研の学生は十数名居たと思います。その中に旅費がないからゼミ旅行には行かないという学生が居ました。何人かの学生がパチンコ台を終了させて、彼の旅費を稼いで皆でゼミ旅行に行きました。こういう事は、私の学生時代からその時まで見たことがありませんでしたから「これが私学の学生なんだ」と、えらく感激したものです。でも、それ以降だんだんこういう学生は少なくなつて、最近ではこういう学生を探すのは難しいようになってきた気がします。

立命館理工学部の電気工学科にきて、研究について最初に言われたことは、「教員の研究費なんて個人研究費以外ありません。実験実習費はすべて学生に還元するものです。」でありました。この頃理工学部は他の学部から「金食い虫、お荷物」と言われていて、じつとしていてお金の要るようなことはしてくれないというような雰囲気も幾分感じられました。十年間位は、研究らしい研究は何もできませんでしたし、しませんでした。福井大学に赴任するとき恩師の先生から、「学位は研究者の仲間入りをするためのもので、これからは学位とは別の自分自身の研究

テーマを探しなさい。」といわれましたが、自分のテーマを探すのに、私にはこの十年が必要だったような気がします。少しばかりは学外の企業と共同研究するようなルートもできましたが、この頃は学生自治会だけでなく、大学全体が「産学共同などもってのほか」の雰囲気でしたから、「お金は要らないから、機器や装置を貸してください。」といっているいろいろな装置、機器を借りるようなおっかなびっくりの共同研究でした。この間、研究の仕方もおいおい会得し、そんなに研究費がなくても論文の一つも書けるようになりました。

その後、数年して電気工学科と機械工学科で情報工学科が創られ、その後しばらくして理工学部の草津移転が決まり、また電気工学科は電気電子工学科となり、移転後は電気電子工学科の倍以上に規模が大きくなりました。学内では理工学部がお荷物と言うような雰囲気は無くなりました。理工学部の研究活動も活発になり大規模化し、研究の値うちがお金で測られるような雰囲気も出てきたように思います。気がつけば、私は医用画像の処理が研究テーマとなり、一寸したアイデアで小器用に論文を書くようになり、恩師の先生が期待されていたような立派な研究はできなくなったような気がします。不求工という言葉もあるようですが、そういう意味では、ちょうどよい時期に定年と言うものは来る

ものだと思っています。

最近思う事など

これまでに、何度か先輩の先生方の定年退職されるのを見てきて、定年ということはどういう感慨をお持ちだろうと思つたことがありますが、いざ自分の番になると意外と感慨なんぞと言うものがわかないことに驚きます。小学生だった頃、ジフテリアとかツベルクリンとかの集団注射を学校の講堂で列を作つて受けたものですが、書いて言えばこれに似ています。「注射痛くないかな。でも自分の番になれば、結局はそうたいしたことじゃなかったよ。」寿命が来て、あちらへ行くときも、まあこんなものだろうと思えてくる。

三木 清が人生論ノートのなかで「年をとると若い頃ほど死が怖くなくなる。」というようなことを言っています。が、わかるような気がします。そうたいしたこと出来ずに、あちらが痛い、こちらが悪いと健康に不安を持ちながら定年まで、三十二年間もようもつたものだと思います。概して愉快で楽しい教師生活であったと感謝しています。残された十年、長ければ十五年、俳句や歌や絵など、いままでとまったく違ったところに精進できたらいいなと思つています。

いざさらば 盛り思ふもほどもなきを 覚らず経にけり 定年となるまで 勳

立命電友会個人情報保護規則の制定・ 施行（実施・実行）についてのお知らせ

会長 荒木 敏

春暖の候、会員の皆様方におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は立命電友会に對しましてひとかたならぬご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本会は個人情報保護に対する昨今の社会的関心の高さと内閣府により制定・完全施行（2005年4月1日）された「個人情報の保護に関する法律」（以後、「個人情報保護法」と称す）に鑑み、本会が有する会員の個人情報の保護と適切な取扱いをはかるため、昨春より「立命電友会個人情報保護基本方針」（以下、「基本方針」と称す）や「立命電友会個人情報保護規則」（以下、「規則」と称す）の策定に努めてまいりました。そして、2006年5月13日（土）開催の役員会の議を経て「基本方針」を制定・施行することとし、本会報第28号（2006年10月1日発行）にてその内容を会員皆様方にご紹介させていただきました。

また、引き続きワーキンググループ（WG）にて策定作業を行い「規則」が、2006年11月4日（土）の（臨時）役員会の議を経て承認・施行することといたしました。この間、多大な労力と誠心誠意を持って策定作業にご尽力いただきましたWGメンバー、熱心なご議論と深いご理解を賜りました役員会の方々に対しまして、心より御礼申し上げます。

この「基本方針」は、立命電友会会則と個人情報保護法の双方を鑑みて個人情報の取扱いに関する本会の姿勢を内外に示すものであります。一方、本「規則」は立命電友会における個人情報の取扱いに関する具体的な取決めを表すものであり、次の様に二十一の条項と付則から成り立っております。

- 第1条（目的）
- 第2条（定義）
- 第3条（個人情報の利用目的）
- 第4条（個人情報保護運営委員会の設置）
- 第5条（運営委員会の職務）
- 第6条（運営委員会の構成）
- 第7条（個人情報取扱責任者の設置）
- 第8条（個人情報の取得制限）
- 第9条（個人情報の利用制限）
- 第10条（個人情報の更新）
- 第11条（個人情報の提供の制限）
- 第12条（個人情報の安全管理）
- 第13条（個人情報取扱いの外部委託）
- 第14条（個人情報の開示）
- 第15条（個人情報の訂正）
- 第16条（個人情報の利用停止等）
- 第17条（苦情処理）
- 第18条（個人情報取扱状況の報告）
- 第19条（本規則に疑義が生じた場合）
- 第20条（本規則の改正）
- 第21条（細則の制定および改廃）

付則

- 様式1 個人情報保護委員会委員に対する誓約書
- 様式2 個人情報取扱責任者と担当者に対する誓約書
- 様式3 個人情報取扱いを外部委託する業者に対する誓約書
- 様式4 個人情報の開示申請書

是非ともこれらをご一読賜りその内容に対する十分な理解と深いご認識を賜りたいと存じます。

尚、前報に引き続き重ねて申し上げておきます。今般の個人情報保護法の施行やこれに係わる本会の基本方針並びに規則づくりにより、本会の活動目的である「会員相互の親睦と社会的ネットワークの構築」がいささかも脅かされることがあってはなりません。今回、本会が策定の施行する「基本方針」、「規則」は、法の遵守と本会活動の両立を目指すためのひとつの作業形態でありますことを十分にご理解賜りますようお願い申し上げます。

会員皆様方が催しになられます年次同窓会開催等に必要な情報と本会が保有している個人情報の（含・名簿）の取扱いに関しては、適時・適切・適正に対応いたしますので、随時事務局までお問い合わせください。

最後になりましたが、今後とも引き続き、本会の活動にご協力賜りますようお願い申し上げます。

以 上

立命電友会個人情報保護規則

第1条 (目的)

立命電友会 (以下「本会」と称す) は、「個人情報の保護に関する法律」(以下「個人情報保護法」と称す) を遵守し、立命電友会個人情報保護基本方針 (以下「基本方針」と称す) に則り、本会が保有する会員の個人情報についての保護とその取扱いを定める。

第2条 (定義)

本規則でいう本会会員の「個人情報」、「個人情報データベース等」とは、個人情報保護法第2条(定義)を準用する。

第3条 (個人情報の利用目的)

本会が取得した個人情報は、会報の送付、会合の開催案内、会員への連絡、会費管理事務、個人情報データベース等の更新のために利用する。

2 前号以外の目的で個人情報を利用する場合には、その都度、利用目的を特定し、十分な検討を経て、慎重に取扱う。

第4条 (個人情報保護運営委員会の設置)

本規則の目的を達成するため、立命電友会役員会 (以下「本会役員会」と称す) のもとに立命電友会個人情報保護運営委員会 (以下「運営委員会」と称す) を置く。

2 運営委員会は、その活動状況を本会役員会にて報告する。

3 運営委員会の運営に関する事項は運営委員会において定め、本会役員会に報告する。

第5条 (運営委員会の職務)

運営委員会は、次の各号に定める事項について審議し、決定する。

- 1) 個人情報および個人情報データベース等の管理・運用方法の検討と取決め
- 2) 個人情報の開示、訂正、利用停止および消去等の検討と取決め
- 3) 個人情報の管理・監督および改善の策定
- 4) 個人情報の管理および取扱いに関する苦情等の処理の検討と対応
- 5) 本規則の施行に関し必要な細則等の策定および改廃の検討
- 6) その他、基本方針に定める個人情報保護に必要な事項の検討と取決め

第6条 (運営委員会の構成)

運営委員会の委員 (以下「運営委員」と称す) は、本会役員から選出される。

2 運営委員会は、運営委員の中から委員長1名、副委員長若干名を選出する。

3 運営委員は、本会に誓約書(様式1)を提出しなければならない。

4 運営委員会は、必要があると認められた場合には、運営委員以外の者を運営委員会に出席させて意見を求めることができる。

第7条 (個人情報取扱責任者の設置)

本会は、立命電友会個人情報取扱責任者 (以下「取扱責任者」と称す) 2名(正・副)を置く。

2 取扱責任者は、運営委員の中から運営委員会において選出される。

3 取扱責任者は、基本方針に則し、本規則ならびに細則に基づいて、個人情報が取扱われるように監督しなければならない。

4 取扱責任者は、個人情報の管理や取扱い等に疑義が生じた場合は、遅滞なく運営委員会に報告しなければならない。

第8条 (個人情報の取得制限)

本会は、本会活動目的を遂行するために必要な項目に限定した個人情報の取得を行う。

2 本会は、利用目的を予め会員に公表し、個人情報を取得する。

3 本人から直接個人情報を取得する場合は、その利用目的を通知する。

第9条 (個人情報の利用制限)

本会は、利用目的に則った業務を遂行するため、項目を限定して個人情報を取扱う。

2 本会は、取扱責任者および業務を遂行するために個人情報を必要とする者に対して、事前に守秘義務の遵守を誓約(様式2)させた上で、個人情報の取り扱いを認める。

3 本会は、個人情報の取扱い場所と機材(保管用メディア、ソフトウェア、データフォーマットを含む)を限定し、それ以外での作業を認めない。

第10条 (個人情報の更新)

本会は、利用目的の達成に必要な範囲内において、個人情報を正確かつ最新の内容に保つよう努める。

第11条 (個人情報の提供の制限)

本会は、活動目的(本会会則第5条「目的」)に則さない個人情報の提供は行わない。ただし、運営委員会が正当な理由があると認めた場合は、この限りでない。

第12条（個人情報の安全管理）

本会は、個人情報の取扱いにおける安全性に留意し、その取扱者を特定し、機材、取扱い手順、心得等を規程し、個人情報の安全管理に努める。

2 本会は、個人情報の不正利用・外部流出、滅失、棄損等を防止するため、必要な対策を迅速に講じる。

第13条（個人情報取扱いの外部委託）

本会は、財団法人日本情報開発処理協会認定のプライバシーマークの使用許諾を受けた業者（以下「業者」と称す）に個人情報の取扱いを外部委託することができる。

2 本会は、個人情報の取扱いを外部委託する場合には、業者に対し、基本方針に対する理解を求め、事前に守秘義務の遵守を誓約させる（様式3）。

第14条（個人情報の開示）

本会員は、自己に関する個人情報について、適切な手続き（様式4）により取扱責任者に対して開示請求することができる。

2 取扱責任者は、会員本人から自己の個人情報の開示を求められたときは、本人確認の上、その本人に遅滞なく、その個人情報の開示を行う。ただし、個人情報保護法第二十五条（開示）に挙げられた開示しない事由に抵触する恐れがあると判断した場合には、本開示請求を運営委員会にはかり、個人情報の全部または一部を開示しないことができる。

3 運営委員会が個人情報の全部または一部を開示しないと判断した時には、取扱責任者は、本人に対して、遅滞なく、その旨を通知する。

第15条（個人情報の訂正）

本会は、会員本人から、自己に関する個人情報の内容が事実でないという理由によって当該個人情報の内容の訂正、追加または削除（以下「訂正等」と称す）を求められた場合には、利用目的の達成に必要な範囲内において遅滞なく必要な調査を運営委員会に行わせ、その結果に基づき、当該個人情報の内容の訂正等を行う。

2 本会は、前項の規定に基づき求められた個人情報の内容の全部もしくは一部について訂正等を行ったとき、または訂正等を行わない旨の決定をしたときは、本人に対し、遅滞なく、その旨を通知する。

第16条（個人情報の利用停止等）

本会は、会員本人から、自己に関する個人情報が第8条（個人情報の取得制限）の規則に違反して取得されたものであるという理由、または、第9条（個人情報の利用制限）の規則に違反して取扱われているという理由によって、当該個人情報の利用の停止（以下「利用停止等」と称す）を求められた場合には、必要な調査と検討を運営委員会に行わせ、その求めに正当な理由があることが判明したときは、遅滞なく、当該個人情報の利用停止等を行う。

2 本会は、会員本人から、自己に関する個人情報が第11条（個人情報の提供の制限）に違反して第三者に提供されているとの理由によって、当該個人情報の第三者への提供の停止を求められた場合には、必要な調査と検討を運営委員会に行わせ、その求めに理由があることが判明したとき、遅滞なく、当該個人情報の第三者への提供を停止する。

第17条（苦情処理）

本会は、運営委員会での検討を経て、個人情報の取扱いに関する苦情の適切かつ迅速な処理に努める。

2 本会は、前項の目的を達成するため、必要に応じて体制整備を行う。

第18条（個人情報取扱状況の報告）

取扱責任者は、個人情報の取扱状況を少なくとも年一回運営委員会へ報告する。

2 運営委員会は、個人情報の取扱状況を少なくとも年一回本会役員会へ報告する。

第19条（本規則に疑義がある場合）

本規則に記載がない事項もしくは疑義が生じた場合は、個人情報保護法に基づいて処理をする。

第20条（本規則の改正）

本規則の改正は、運営委員会の審議を経た決議事項を暫定施行し、直近の本会役員会において承認を得るものとする。

第21条（細則の制定および改廃）

本会は、個人情報保護を確実に遂行するため、必要に応じて、細則を運営委員会にて策定または検討し、直近の本会役員会において承認を得るものとする。

付 則

本規則は、2006年11月4日より施行する。

以 上

二〇〇六(平成十八)年度
電子システム系卒業生進学・就職状況

二〇〇七年三月に修了した院生、卒業した学部学生の進路・就職状況は、別表の通りとなりました。就職先としては、例年通り製造業が七〇%以上を占めました。そして、電気・電子、自動車関係の企業が、相変わらず人気を集めています。

今年度は、団塊の世代が大量に退職する、いわゆる二〇〇七年問題と、景気回復の兆しを受けて、バブル期なみの求人会社数となりました。求人会社数では、立命館大学の理工系学科の中で電気電子工学科が第一位、電子情報工学科が第三位であり、どちらの学科も例年通り上位を占めました。

実質的な採用活動の時期も、昨年度よりも一、二カ月早まり、求人企業の採用に対する高い意欲が伺えました。

しかしながら、求人企業は、バブル期の採用の教訓を踏まえ、「採用数は増やすが、質は落とさない」、「充足しない場合は、中途採用もしくは補充しない」方向で採用活動を行っています。その影響からか、就職活動を通して、初めて社会の厳しさを知る学生も少なからず見られました。そして、「内定を多く取る学生」と「苦戦を強いられる学生」の二極化現象が進んでいます。とはいえ、就職

活動の前半で社会の厳しい壁に当たって苦戦を強いられた学生も、指導教員のアドバイスによって成長し、子会社を不合格になりながら、その後に親会社に合格した例もありました。

学生にとっての就職先決定の決め手は、先輩に会って直接話を聞いたことというのが、圧倒的に多かったようです。先輩方の活躍が、学生にとっての励みになると同時に、将来の姿となっています。

今後とも、より一層の在学生へのご指導、ご支援を賜りますようお願いいたします。

(就職委員 沼居 貴陽)

I. 卒業者・進学者・就職者一覧

2007年3月2日現在

	卒業者	進学者	就職者	活動中
大学院(電気)	57	1	51	5
大学院(光工学)	70	0	65	5
電気電子工学科	156	82	49	25
電子情報工学科	128	65	48	15
合計	411	148	213	50

II. 就職先一覧

(大学院・修了生の就職先も含む)(順不同敬称略)

業種	企業名	
電気・電子機械	TDK、アイシン精機、イシダ、イビデン、エスティ・モバイルディスプレイ、オムロン、三洋電機、大阪真空機器製作所、オリンパス、キヤノン、京セラ、きんでん、コーセル、小松製作所、三社電機製作所、三洋エプソンイメージングデバイス、サンワテクノ、ジェイテクト、渋谷工業、島津製作所、シャープ、新日本無線、住友電設、セイコーエプソン、西部電気工業、ソニー、ダイキン工業、大日本スクリーン製造、デンソー、東海理化電機製作所、東京エレクトロン、東芝、東京ドロウイング、東レ、東レエンジニアリング、トーエネック、徳山電機製作所、富山富士通、豊田自動織機、内外電機、中井工業、ナナオ、ニコン、日新電機、日本サムスン、日本電気、日本電気硝子、日本電産、日本ビクター、日本モレックス、パナソニック、日立電線、富士通、富士通ゼロックス、富士通VLSI、富士通ゼネラル、富士通テン、ブラザー工業、堀場製作所、松下電器産業、松下電工、三菱重工業、三菱電機、村田製作所、ユースン精機、リコー、ローム、ワイ・ディ・シー、和晃技研	69社/128名
電力	関西電力、四国電力	2社/12名
自動車	スズキ、ダイハツ工業、トヨタ自動車、日産自動車、本田技研工業、三菱自動車	6社/13名
鉄鋼	川崎造船	1社/1名
運輸・通信	KDDI、TIS、九州旅客鉄道、トヨタマップマスター、西日本電信電話	5社/7名
建設	コベルコ建設、日建設計	2社/2名
印刷	大日本印刷、凸版印刷	2社/4名
情報・システム	伊藤忠テクノサイエンス、NTTアドバンステクノロジー、NTTデータ、NTTテレコム、ときわ情報、エルビーダメモリー、大阪エヌデーエス、オービック、沖ソフトウエア、オムロンリレーアンドデバイス、キヤノンシステムアンドサポート、キヤノンマーケティングジャパン、京セラコミュニケーションシステム、さくら情報システム、ジェイエスコポレーション、システムテクノ、ソニーLSIデザイン、ソニー・エリクソン・モバイルコミュニケーションズ、東芝三菱電機産業システム、エムオーテックス、日本GPSソリューション、日本システム、ネットワンシステムズ、パナソニック半導体システムテクノ、日立コミュニケーションテクノロジー、富士通フロンテック、三菱電機マイコン機器ソフトウエア	27社/35名
その他	INAX、SFCG、TBC、アイティメディア、エクスプレス社、大分銀行、家業、神鋼不動産、国家公務員I種(国土交通省)、シスメックス、竹菱電機、日本碍子、野村総研、日本マクドナルド、阪和興業、ピーシーワークス、三菱東京UFJ銀行、メイテック、ヤマダ電機、リクルートスタッフィング、近畿コカコーラボトリング	21社/21名

同窓会だより

『衣笠三十一会卒業 五十周年記念同窓会』

平成十八年六月十五日(木) J
 R京都駅前『京都タワーホテル
 九階、白水の間』にて、前田先生
 に御出席頂き総勢二十五名(内一
 名同伴)が一同に会し、卒業五十
 周年に当たり今日の佳き日を喜び
 合った次第です。さて、今回の準
 備に当たり、これまでの経緯を少
 し述べたいと思います。私どもの
 クラス会は毎年この時期に、恐ら
 く三十歳前半頃から始まったと記
 憶して居りますが、その間に一、
 二度泊まりの会をしましたが、
 それも比較的近場で旅行らしいも
 のではありませんでした幹事とし
 てもこの機会に、ぜひ温泉旅行で
 もと多くの声もあり、計画を立て
 アンケートも取りましたが、結果
 は一泊旅行は困難というもので大
 なり小なり身体の具合が思わしく
 ない方が増えて来たと言ふ事です
 う。これからは、当然の事ながら
 会員の年齢も七十三歳を越えての
 集まりは、増えることは無い訳で
 すが、今回は多くの方がお会いで
 きるようにと注力したことが、結
 果として良かったと思えますが、
 旅行に多くの方が参加出来るのは、

六十歳代かともっと早くにやって
 置けば良かったかと悔いが残りま
 す。

さて、同窓会の開会に当たり、
 何時もの様に先に記念撮影を行い、
 同窓会会場へ、開会に伴って先ず
 物故者への黙祷を捧げ、続いて会
 長挨拶で中でも特に闘病中の会員
 の状況を発表し、欠席者の思いを
 伝えました。

その後は、懇親会に入り和気あ
 いあいと学生時代の気分に戻り話
 が尽きることがなく、カラオケ大
 会に入る前に会員各自にスピーチ
 をお願いして、七十歳代(中には
 八十歳近くの方も)に至った今日
 の心境を吐露して頂きました。多
 くの方が健康問題を語られるのは、
 共に戦後の食料難を切り抜けてき
 た当時の弱々しい体に起因するの
 かと思ふ面も有りますが、これか



らは、各自のより一層の自愛専一
 を祈る他ありません。また、前田
 先生からは、今日の母校の様子を
 お聞きし更なる発展を遂げてる事
 に大いに喜ばしく感じた次第です。
 カラオケ大会では、Y氏はプロ
 級で場内も静聴の場に変わるのは
 流石がと思いましたが、因みに彼
 は現役バリバリです。最後には何
 時もの様に、校歌斉唱と応援歌で
 幕を閉じました。会員の皆様には、
 どうか来年も元気な顔を見せて下
 さるようお願いして止みません。
 (記 西村 明男)

(記 西村 明男)

三十二電友会 第二十回同期会開催

ご報告と卒業五十周年 記念同窓会開催案内

第二十回目的の節目の同期会を初
 めて関西を離れ浜名市で昨年十月
 二十六、二十七日の二日間グラン
 ドエクシブ浜名湖で開催いたしま
 した。

今回も諸先生方に出席をお願い
 致しましたが、ご都合が着かず残
 念ながら、初めて同期会のメンバ
 ーのみの開催となりました。

今回の参加者は十九名で、例年
 の参加者より五、六名少なく多少
 残念に思っています。
 二十六日は有志十一名で浜名湖
 を埋立てて造られたグランディ浜

名湖ゴルフ倶楽部プレイを楽しみ、
 真赤な夕日を眺め温泉で疲れを癒
 し、参加者全員で楽しく賑やかに
 宴会を開催いたしました。

翌日は観光バスで浜名湖周辺の
 名所旧跡を訪れ(大草山展望台↓
 竜ヶ岩洞↓奥山方広寺↓井伊谷宮
 等)昼食は精進料理を戴き、浜松
 駅で解散しました。

今年卒業五十年を迎えます、
 十月十八日(木)〜十九日(金)
 京都八瀬に完成した、エクシブ京
 都・八瀬離宮で開催を予定致して
 おりますので、予定表に記載をお
 願いいたします。猶、詳細は後日
 連絡いたします。 小松 明



辻村・前田・浦山研究室 定例同窓会報告

紅葉の時期も終わりに近づいた
 十二月二日(土)の十九時より、
 木屋町仏光寺下ルの「岡たみ旅館」
 にて定例同窓会を例年通り開催し
 た。当日は、はやりの風邪をひか
 れ体調を崩し急遽欠席となられた
 方も数名おられたが、辻村寛先生、
 前田稔夫先生、浦山隆先生を含め
 総勢四十名の参加であった。小川
 弘之氏(S五十五卒)の司会で総
 会議事を速やかに完了し本題の懇
 親会に移った。辻村先生のご挨拶、
 浦山先生のご発声で乾杯を行い懇
 親会のスタートとなった。各所で
 先生方を囲み近況と学生時代の思
 い出を語りあった。また、辻村先
 生には学生時代のゼミ旅行の写真
 をお持ち頂きそれぞれ懐かしい思
 い出や武勇伝の話に盛り上がった。
 和やかさに包まれる歓談の中、た
 ちまちの内に二時間半が過ぎ前田
 先生の一本締めで中締めとし、終
 わりに全員で記念写真を撮り卒業
 年度毎のグループで二次会へと繰
 出して行った。なお、次回の開催
 は一年半後の六月を予定していま
 す。今回出席できなかった方も是
 非出席していただけるようお願い
 します。

幹事 水田 記

辻村・前田・浦山研究室同窓会
(記事は前頁下段)



杉本研究室同窓会 「参土会」

平成十八年十一月十八日(土)

杉本研究室同窓会「参土会」が琵琶湖ホテル・ローズの間において開催されました。今年には杉本先生が還暦を迎えられ、そのお祝いを兼ねた同窓会ということで、杉本先生が大阪大学に勤務されていた当時に関係のあった諸先輩方もご出席いただきました。同窓会当日は現役の学生を含め、総勢約五十名の参加者が集まり、杉本先生の挨拶に始まり、立食形式の食事を取りながらの歓談となりました。この度の参土会は二年ぶり、第二回目の開催でしたが、今回が初めての参加と言う方々も多く、久し振りに顔を合わせる杉本先生や当時の仲間、先輩、後輩入り乱れての思い出話、近況報告等々で話が弾みました。その後、OB、現役学生から杉本先生に記念品と花束をお渡ししました。また、杉本研究室の恒例ですが、参加者全員にマイクが回り、各々所感を披露しました。卒業後の四方山話には始まり、今だから言える学生時代の裏話等々盛りだくさんでした。時間はあっという間に過ぎ、最後に参加者全員で記念写真を撮り解散しました。

本同窓会は数年間隔で開催する予定ですので、今回参加することが出来なかった方々も、ぜひ次の機会にはご参加いただければと思います。また、今回ご参加いただきました皆様には、過去の学会発表論文等を収録したCD-ROMを記念品としてお配りしました。まだ若干残っておりますので参加することが出来なかった方にはご連絡いただければ郵送いたします。
(連絡先：立命電友会事務局)



学系便り

平成十九年度
電子システム系の主な役職者

電気電子工学科
学科長 津田川 勝

就職委員 北澤 敏秀

電子情報工学科
学科長 左貝 潤一

就職委員 浮田 宏生

電子情報デザイン学科
学科長 山崎 勝弘

就職委員 寺井 秀一

【異動】

溝尻 勲 教授

平成十九年三月三十一日、定年退職



訃報

卒年	氏名	生年
昭16年	天野 正治	平成16年10月23日
昭25年	伊藤 卓爾	平成18年3月21日
昭28年	林 勇	平成19年2月12日
昭29年	清水 熙正	平成18年8月
昭32年	高下 隆	平成18年4月21日
昭33年	榎 弘	平成18年7月15日
昭36年	平田 寿之	平成18年12月4日
昭41年	石井 清	平成18年5月1日
昭43年	黒中 隆久	平成18年5月29日
昭46年	北田 博	平成16年
昭51年	村上 浩史	平成15年12月
昭59年	村上市	

事務局便り

立命電友会会報第二十九号の発行にあたり、ご寄稿いただきました皆様には、心よりお礼申し上げます。今回の同窓会便りに「多くの方が参加できるのは六十歳代かと……」と西村様がお書きになっていらっしゃるようです。同窓会開催にしましては事務局でもお手伝いをさせていただきますので、宜しくお願いします。

立命電友会連絡先

〒五二五-八五七七

滋賀県草津市野路東一丁目

立命館大学理工学部電子システム系内

立命電友会事務局

川畑 良尚

宮林(月・木)

電話 〇七七(五六)二六六二

FAX 〇七七(五六)二六六三

E-mail: denyukai@ml.ritsumei.ac.jp

http://www.ritsumei.ac.jp/se/re/denyukai/

(会報の題字は久保之俊氏)